

事業所における児童発達支援自己評価結果（公表）

公表：令和 6年 2月 13日

事業所名：白糠町子ども発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別課題や自立課題に取り組むエリアを放デイの学習室へ移して、一人余暇のエリアを増やしました。	今後も児童が安心安全に活動できるよう、環境を整えていきます。
	②	職員の配置数は適切である	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		見通しを持って活動できるよう児童の特性に合わせた設備や環境の配慮をしています。事業所内はバリアフリーになっていますが、外玄関から2階の内玄関までは階段です。	今後1、2歳児童についても特性に合わせた設備や環境の配慮を再検討します。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、清掃と消毒作業をすることで清潔さを保てるようにしています。朝の会、机上課題、遊ぶ部屋などそれぞれの活動する場所をパーテーションなどで区画を分かりやすく仕切っています。	今後も清掃作業の手順や分担について、効率よく行えるよう改善を検討していきます。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			
	⑥	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の方にアンケートの協力をいただき、意見や意向を拝見しています。 すぐに取り組めるところは改善しています。	今後もお寄せいただいたアンケート結果を踏まえ、支援や環境を見直していきたいと思います。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所として自己評価を行った結果による支援の質の評価及び改善の内容は、事業所のホームページで公開し、事業所の内玄関正面に掲示しています。	今後も取り組んで行きたいと思います。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	くしろ地域生活支援センター全体で実施していません。	今後は法人全体での実施について検討しています。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修や外部研修を受け、事業所職員に伝達をしています。	WEB研修へも積極的に参加できるように今後も機会を作りたいと思います。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		行動観察やアセスメントツールの使用、児童や保護者から同ったニーズを含め職員間で話し合い、児童発達支援計画を作成しています。	今後は経験の浅い職員についてもアセスメント力を高められるように、職員間で情報交換しながら取り組んで行きたいと思います。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	標準化されたアセスメントツールの使用はありませんが、行動観察によるアセスメントや簡易的なアセスメントツールを使用しています。	今後も保護者が医療機関等で発達検査を実施しているときには、検査結果を教えていただき検査結果の助言や内容を療育に活かしていきたいと思います。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		厚生労働省より定められた児童発達支援ガイドラインに基づき、お子さんに必要な支援内容を具体的に設定して、児童発達支援計画を作成しています。	今後もガイドライン総則は必要などきにいつでも確認できるように児童発達支援計画を作成して行きたいと思います。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		個別、小集団での活動を設定するなど、児童の状況に合わせた活動内容を職員間で検討しています。	今後も少人数でできる遊びを検討する際にはチームの中での立案者を交代し、視点を変えて活動プログラムを設定するなど工夫していきたいと思います。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動プログラムを提示するスケジュールは、パターン化されないよう活動の順番を入れ替えたり、追加や変更、中止なども学べるよう提示するなど、同じ活動にならないよう取り組んでいます。	今後もスケジュールを活用して活動の追加、変更、中止を学べるよう児童の特性に合わせて提示することや、外遊びや、身近な材料を使った制作活動、身体を使ったゲームやサーキット遊びなど色々な活動を経験できるよう工夫します。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		児童の発達特性に合わせて支援計画を作成しています。	今後も児童の状況に合わせ、適切な行動や社会性が習得できるよう、個別や小集団活動を取り入れ計画を作成していきます。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援の開始前に支援の内容や流れと役割、活動の目的、児童の発達特性を確認するなど職員間で打合せています。	今後も支援の開始前には打合せを確認していきます。
	⑱	支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後にはには、職員間で振り返りを行っています。保護者からの連絡も職員全体で共有しています。	気になる行動が見られた場合、なぜそうなったのか場面の前後の様子を詳細に伝え、話し合っています。
	⑲	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		対応した職員が、児童の状況の事実を記録として残せるよう、また支援計画に沿った記録となるよう記録の取り方を工夫し記録を残しています。	今後もどのような視点で観察し記録していくか話し合い、状況を正しく把握できるように記録を残して児童の行動や様子の状況整理を行い、支援方法の見直しや改善ができるようにしていきます。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		新規契約は利用開始から3ヵ月以内、その後は半年に一度計画の見直しをしています。	今後も定期的にモニタリングを行い、計画を作成していきます。
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		担当職員または事業所長が参加しています。	今後もその児童の状況に最も精通した職員が参加するよう努めます。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		お子さんに関する心配ごとがあるご家庭と一緒に考えていく場として発達相談を設けています。その際に保健師や保育士など各関係機関と情報交換しています。	今後も各関係機関と情報交換を行うよう努めます。
	㉓	（医療定期ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	（医療定期ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引き継ぎ資料を作成して、情報を共有しています。	今後も情報共有ができるようにし、引き継ぎの機会を設けるなど要望があればいつでも応じます。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		引き継ぎ資料を作成し、学校の春休み期間など就学までに情報交換をしています。	今年度は職員1名のみ小学校にてコーディネーターと情報交換しましたが、今後は相互理解を深めるためにセンターに来所していただき職員が全員参加するなど、情報共有の方法について工夫して行きたいと思います。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		法人内の心理士、理学療法士、言語聴覚士から助言を受けています。	今後も研修など内部外部共に積極的に受けていきます。
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等の交流や、障害のないこどもと活動する機会がある		○	認定こども園を利用しながら療育を利用しているため、療育期間中に交流の機会を設けていません。	事業所の運営として交流を目的として療育を行っていないため、今後も実施予定はありません。
	㉘	（地域自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	今年度は職員の勤務状況に不安定さがあり会への積極的な参加はできませんでした。	来年度も機会や参加要請があれば参加を検討したいと思います。
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え会い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や保護者の来所時などに直接活動の様子を伝えたり、必要に応じて連絡帳を使い情報交換をしています。	今後も送迎時や電話連絡、時間を調整して来所していただくなど、保護者の要望に応じゆっくり話せる機会を設けていきます。
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペアレント・トレーニングについて支援できる資格保持者はいないため、プログラムとしての本格的な取り組みは行っていません。	ペアレントトレーニングを学びたい方や知りたい保護者に対し、要望があればインターネット等で視聴できるものなどをお知らせすることや、ペアレントトレーニングではなくても保護者の相談等には応じ、家庭で取り組めることなどについては一緒に考えていきます。
保護者への説明責任等		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	㉛	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明し同意を得ています。	今後も質問など随時対応していきます。
	㉜	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		定期的にモニタリングや児童の発達に合わせた支援計画を作成し、支援内容について保護者に説明し同意を得ています。	今後も厚生労働省より定められた児童発達支援ガイドラインに基づき、お子さんに必要な支援内容を具体的に設定して、児童発達支援計画を作成しています。
	㉝	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	㉞	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は法人内の心理士や言語聴覚士による保護者学習会を開催しています。	今後は保護者同士が情報交換できる場として茶話会などの開催も検討していきたいと思います。
	㉟	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		児童らの相談や要望等は利用時に確認しています。保護者と顔を合わせられるときには、困り感や事業所への要望等が無いかを確認し、個別の相談にはすぐに対応しています。	今後も相談や要望などの内容に合わせて検討し、全体への周知が必要な場合には結果を迅速に周知、対応できるようにしたいと思います。
	㊱	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを発行し、利用予定、事業所の連絡先等を載せて各家庭に配布しています。	今後もお便りを毎月発行し、利用予定日や活動予定、行事予定を発信していきます。
	㊲	個人情報の取扱いに十分注意している	○		職員が知り得た個人情報は施錠できる棚に保管し、取扱いには十分に注意しています。関係機関等へ引き継ぎや情報交換をする際には、保護者の承諾を得てから行っています。	今後も取扱いには十分気を付けていきます。
	㊳	障害のある子どもや保護者との意志の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		送迎時や連絡ノート、電話連絡やお会いできた際に様子に、お子さんの様子を伝えています。	今後も保護者の来所の機会を作ることが難しいなど希望により連絡ノートを活用していきます。
	㊴	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	活動中に地域住民を招待することはありませんでした。。	保護者からの要望があれば検討します。その際はお子さんの特性、個人情報などを考慮しながら検討していきます。
非常時等の対応	㊵	緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		各マニュアルは策定後に職員室に保管しています。	今後は緊急時の避難経路や避難口、嘔吐物処理などマニュアルの中の実践方法など保護者に周知できるよう、事業所の玄関に掲示するなど検討していきます。
	㊶	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		火災、地震や津波、風水害を想定した避難訓練をそれぞれ年一度計画し、実施しています。	今後は全ての利用児童が訓練に参加できるように、定期的に運動を兼ねて久合の山への避難訓練を検討して行きたいと思います。
	㊷	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		服薬の内容や予防接種の有無、てんかん発作についての注意事項など保護者より話があった際には個別記録に残しています。	今後もお子さんの状況を確認した際は職員間で情報共有していきます。
	㊸	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーの有無は保護者に確認しています。現在医師からの指示書のある児童はいません。	医師からの指示書があれば従います。
	㊹	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		すぐに関覧できるように事例集を保管しています。新しい事例についてはすぐに皆で話し合い、記録を作成しています。	今後も事業所内では、迅速に確認し、他事業所の事例についても周知し、いつでも確認できるようにヒヤリハットやインシデント報告のファイルを作成していきます。
	㊺	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に行われる虐待防止研修に全員参加しています。	今後も研修への参加、セルフチェック表での確認、職員間で話しやすい風通しの良い環境作りに努めます。
	㊻	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束について個別支援計画に記載し説明をしています。また今年度は職員研修も行っております。	今後もどのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて個別支援計画に記載し説明をしています。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。